令和６年度　教育事業（指導者等養成研修事業）

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村（18 年目）

１　事業概要

大学生は、前半の３日間でリーダーシップや小学生への接し方、集団作りの技法、伝承文化等について学んだ。後半の日程では、小学生が参加する「子どもむかし生活体験村」の企画・運営を担当した。そして、後半の３日間を小学生とともに過ごす中で、リーダーとしての資質を身に付け、活動を通して伝承文化を小学生に伝えることができた。

２　事業の目的（ねらい）

地域を大切にし、地域に根ざして活動するリーダーが求められている中で、愛媛の伝承文化を学び、先人の知恵と自然体験を融合した体験活動をすることで、地域を大切にしようとする心を育む。また、「子どもむかし生活体験村」を自ら計画し、運営することで、地域に根ざして活動しようとするリーダーを養成する。

３　企画のポイント

事前にオンラインで講義を受講することで日程を短縮して「子供むかし生活体験村」の準備時間を確保すること、交流の家を宿泊場所とし、大洲市や西予市周辺地域の素材（自然・文化・人材等）を用いて伊予の伝承文化を学ぶことを企画のポイントとした。学びを深めるための体験活動として、芋炊き作りやうちわ作り、川遊び、史跡巡りに挑戦するプログラムを企画した。

４　主　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家
国立大学法人　愛媛大学

５　後　　援　愛媛県教育委員会　大洲市教育委員会　西予市教育委員会

６　期　　日　令和６年８月 20 日（火）～25 日（日）
※大学生を対象とした参加者講習会を７月 17 日（水）に実施
※子供むかし生活体験村は８月 23 日（金）～25 日（日）に実施

７　場　　所　国立大洲青少年交流の家　大洲市　西予市

８　参 加 人 数　大学生 19 名
〔子供むかし生活体験村　小学校４～６年生 29 名〕

９　講　　師　白石　尚寛　氏（大洲市立博物館学芸員）　山﨑　哲司　氏（元愛媛大学教授）
日野　克博　氏（愛媛大学教授）　高橋　平徳　氏（愛媛大学准教授）
大本　敬久　氏（愛媛大学地域協働推進機構准教授）
木之本義道　氏（瑞龍寺住職）
久保　晴輝　氏（大洲地区広域消防事務組合消防署員）
国立大洲青少年交流の家　職員

１０　日　　程

	7月17日(水)	8月20日(火)	8月21日(水)	8月22日(木)	8月23日(金)	8月24日(土)	8月25日(日)
6:30			起床・清掃	起床・清掃	起床・清掃	起床・清掃	起床・清掃
7:00			つどい	つどい	つどい	つどい	つどい
7:30			朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
8:00			土居家へ移動			土居家へ移動	退所準備
8:30					受入れ準備		退所点検
9:00		受付		大洲史跡めぐり			大洲史跡めぐり
9:30		開村式（リーダ村）		・臥龍山荘	開村式（体験村）		・臥龍山荘
10:00		アイスブレイク	歴史体験活動	・如法寺で座禅体験	アイスブレイク	土居家見学	・如法寺で座禅体験
10:30							
11:00		担当決め	昔遊び体験・川遊び準備		班のきまり・係決め	昔遊び	
11:30		うちわのり付け					
12:00		昼食	昼食（土居家　食堂）	昼食	昼食	昼食（土居家　食堂）	昼食
12:30							
13:00		普通救命講習Ⅰ	川遊び・見学	生活体験村の準備	きまり発表	神社・川へ移動	思い出発表準備
13:30					うちわ・竹とんぼ作り	昔遊び・川遊び	
14:00						（※雨天時は室内遊び）	思い出発表
14:30							閉村式(体験村)
15:00							
15:30			着替え（センター）			着替え(センター)	閉村式（リーダー村）
16:00	16:20～	うちわ仕上げ・竹とんぼ作り	交流の家へ移動			交流の家へ移動	リフレクション
16:30	ガイダンス				ベッドメイキング		解散
17:00		つどい		つどい	つどい		
17:30		野外炊飯		夕食	野外炊飯		
18:00			夕食			夕食	
18:30				生活体験村の準備			
19:00			生活体験村の準備			思い出発表準備	
19:30							
20:00		ちょうちん行列	リフレクション		ちょうちん行列		
20:30		リフレクション		リフレクション	リフレクション	リフレクション	
21:00		入浴	入浴	入浴			
21:30					入浴	入浴	
22:00							
22:30		就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	

１１　活 動 内 容

〈第１日目〉８月 20 日（火）

「アイスブレイク」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

「子供むかし生活体験村」で行われる仲間づくりゲームでの指導方法を学んでもらうため、国立大洲青少年交流の家職員が講師となり、アイスブレイクを行った。活動が進むにつれて参加者の笑顔が増え、交流を深めることができた。

「普通救命講習Ⅰ」　講師：久保　晴輝　氏（大洲地区広域消防事務組合消防署員）

心肺蘇生法やＡＥＤの使用方法、怪我などの応急処置、熱中症への対策等について学んだ。参加者は、緊急時に即座に対応できるように真剣に取り組んでいた。また、今回の教育事業中に起こり得る場面を想定し、その対応方法についても講師に質問をすることができた。

「うちわ作り」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

大学生は小学生にうちわ作りを指導する上で、どのような点に気を付けて指導をするべきかを考えながら作成をした。小学生が作成の過程でつまずきやすいポイントを想定し、つまずいた場合の手立てや声掛けなどについても協議をした。

「野外炊飯（鯛めし・芋炊き）」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

愛媛県の郷土料理である鯛めしと芋炊きの歴史に触れ、小学生にどのように伝えるかを考えた。また、安全管理面でどのような事前準備や指示をすればよいかも協議をした。初めて野外炊飯を行う学生が多かったが、手際よくおいしい鯛めしと芋炊きを作ることができた。

「ちょうちん行列」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

各班一つずつ提灯を持ち、星空を眺めたり、蝋燭の歴史について学んだりしながら所内を歩いた。大学生は、小学生が夜道を安全に歩くために、どのようなルール設定をすればよいか考えた。

〈第２日目〉８月 21 日（水）

「歴史体験活動（土居家見学）」　講師：大本　敬久　氏（愛媛大学地域協働推進機構准教授）

西予市野村町惣川にある「土居家」や惣川地区の歴史について、講師の大本氏からプレゼン資料の説明や館内案内を通して学んだ。土居家は四国最大級の規模の茅葺き木造民家であり、大学生はその歴史と壮大さに感動をしていた。さらに、土居家について学んだことをどのように工夫をし、小学生に分かりやすく伝えるかを考えた。

「昔遊び体験」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

土居家の屋内や屋外でできる昔遊びを体験した。全員で伝承遊びを行ったり、個別でけん玉などの昔遊びを行ったりした。大学生は初めて経験する遊びもあり、楽しみながら体験をしていた。また、小学生が来たときにどのような場を設定し、小学生に体験させるかを考えた。

「川遊び体験」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

河原で小学生が安全に楽しく活動できる遊びを考えた。水が苦手な子供がいることも想定し、浅瀬で遊べる生物観察や水鉄砲遊びなどの活動も提案することができていた。また、フィールド内の危険箇所についても共有することで、小学生が安全に活動できるように計画を立てた。

「子供むかし生活体験村の準備」

本事業に対する子供や保護者、大学生の思いを再確認し、「村の掟」を作成した。それぞれの思いを入れつつ、誰もが分かりやすい掟を作成することができた。また、リーダーとしての心得についても話し合い、どのような心構えや態度で子供たちと接するかを再確認した。

〈第３日目〉８月 22 日（木）

「大洲史跡巡り（臥龍山荘）」　講師：白石　尚寛　氏（大洲市立博物館学芸員）

臥龍山荘の歴史などについて、講師の白石氏から学んだ。山荘の美しさや名工の卓越した技術等、臥龍山荘の魅力を十分に感じ取ることができた。さらに、前日訪れた土居家と臥龍山荘は同じ茅葺き屋根となっており、その他の造りも似ているところが多数あることに気付いていた。

「大洲史跡巡り（如法寺）」　講師：木之本義道　氏（瑞龍寺住職）

如法寺の歴史について、講師の木之本和尚に説明をしてもらった。室町時代から今に伝わる歴史ある寺院で、過去に何度も再建されて今に至っている。その歴史の深さを肌で感じることができた。さらに、国指定重要文化財である仏殿で座禅体験をしたり、庭園が見える和室でお茶体験を行ったりした。

「子供むかし生活体験村の準備」

各プログラム担当で話し合いながら準備を進めた。その際、小学生の目線に立って考えたり、大学生役と小学生役に分かれて役割演技したりするなど、意欲的に準備に取り組む姿が見られた。「ゴール設定」「相手ベース」「見える化」の３点を意識して準備を行った。定期的に他グループとも意見交換をすることで、よりよいプログラムとなっていった。

〈第４日〉８月 23 日（金）

「『子どもむかし生活体験村』開村式・アイスブレイク」

大学生が開村式やアイスブレイクの進行を行った。開村式では、小学生の緊張をほぐすために、村長（所長）がサプライズで登場するというような演出を行った。アイスブレイクでは、担当以外の大学生リーダーも積極的に小学生と関わって緊張をほぐしたことで、小学生の笑顔がたくさん見られた。

「班のきまり・係決め・きまり発表」

各班の班名や目標を立てた。大学生は小学生から思いや言葉を聞き、班全員の思いを画用紙にまとめ、最終的には班旗を作成した。また、きまり発表では、各班が堂々と班名やきまりを発表することができた。発表前には、大学生が小学生に発表のポイントをアドバイスしたり、発表時に優しく見守ったりする姿が見られた。

「うちわ作り」

大学生がうちわの作り方について準備していた資料を使って、小学生に指導した。班の仲間で協力してうちわ作りを進める過程で話も弾み、時間とともに打ち解けていく様子が見られた。特に、作業が難しい過程では、大学生が小学生に寄り添いながら作業を進める姿は、見ていて微笑ましかった。

「野外炊飯（鯛めし・芋炊き）」

野外炊飯場を利用して、鯛めしと芋炊き作りを行った。大学生は事前に学んだことを生かし、小学生が安全かつスムーズに作業ができるように、指示や声掛けを行っていた。特に、包丁や火の扱いについては十分に事前指導を行っていた。おいしい鯛めしや芋炊きを作るため、小学生と大学生が積極的にコミュニケーションを取り、調理に励んでいた。

「ちょうちん行列」

各班１つずつ提灯を持ち、星空を眺めたり、初日の活動について話したりしながら夜道を歩いた。小学生は夜道を歩くという経験がほとんどなく、不安な気持ちもありつつも楽しみながら歩いていた。また、大学生が小学生の安全を気にしつつ歩く姿も見られた。

〈第５日〉８月 24 日（土）

「川遊び体験」

当初の計画では午後に行う予定だったが、午後が雷雨の予報となったため、急遽午前中に行った。事前に職員や大学生の配置を考えたり、小学生への指導方法を考えたりすることで、安全に実施することができた。また、大学生は常に小学生の体調や安全に気を付けながら活動していた。

「土居家見学」

土居家見学では、各班に分かれ、大学生が案内を行った。ただ案内するだけでは小学生が飽きてしまうため、クイズ形式にして行った。そのため、小学生は大学生の説明をしっかりと聞き、土居家への理解を深めることができた。

「昔遊び体験」

土居家ではないちもんめ等の伝承遊びやカルタや羽子板等の昔遊びを体験したが、雨が降ってきたため十分行うことができなかった。そのため、交流の家に戻り、ホールでできるけん玉やコマ回し等の昔遊びを行った。大学生が小学生に教えたり、逆に教えてもらったりするなど和やかな雰囲気で行うことができた。

〈第６日〉８月 25 日（日）

「大洲史跡巡り（臥龍山荘）」

臥龍山荘内を効率的に回るため、３グループに分かれて見学をした。それぞれのグループで大学生が建物の特徴や歴史について小学生にも分かりやすい言葉を選び、説明を行った。臥龍山荘の景観や肱川の美しさを味わいながら見学していた。

「大洲史跡巡り（如法寺）」

２グループに分かれ、お茶体験と座禅体験を行った。お茶体験では、大学生がお茶を点て、小学生に振る舞った。座禅体験では、仏殿の静寂の中、姿勢を正して座り、呼吸を整え、自己と向き合う貴重な時間を体験することができた。

「思い出発表」

担当の大学生リーダーが司会を務め、思い出発表を行った。小学生が各班で思い出を発表し、他の班の小学生や大学生、保護者が発表を聞いた。短時間での準備ではあったが、どの班も堂々と発表することができた。３日間の活動がとても充実したものだったということが伝わってきた。

「閉村式（子供むかし生活体験村）」

代表の小学生が３日間の感想を発表し、村長（所長）が挨拶した後、大学生が閉村式を締めくくろうとした時、小学生から大学生へのサプライズが行われた。前日の夜に大学生がリフレクションを行っている間に練習した、歌と感謝の色紙が大学生に贈られた。大学生も小学生も涙を流し合い、３日間の共同生活が締めくくられた。

「閉村式（リーダー村）」

大学生がリーダー村での感想を発表し、６日間の活動を振り返った。大学生の感想から、想像していた以上の感動体験をすることができ、そこから学ぶことがたくさんあったことが伺えた。初めは個の集まりだった大学生が、５泊６日の間にチームとなり、チーム一丸となって小学生と関わることができた。

１２　参加者の声（事後アンケートの結果）

【大学生】　＊満足：94.8%　＊やや満足：5.2%　＊やや不満：0%　＊不満：0%

○　自分を変えたい、経験を積みたいと思い参加した。予想以上によい経験となった。
○　人として責任ある行動を取ったり、みんなの前で堂々と発言したりできるようになった。
○　講義では教わることができない、貴重な経験をすることができた。

【小学生】　＊満足 93.2%　＊やや満足：6.8%　＊やや不満：0%　＊不満：0%

○　大学生が優しかった。友達もたくさんできた。(11 歳・女子)
○　みんなで協力していろいろなことをするのが楽しかった。(12 歳・女子)
○　昔のことを体験することで、大学生や小学生と交流を深められた。(10 歳・男子)

１３　事業の成果

昨年度に比べ大学生も小学生も募集人数を大幅に増やしたが、多くの過年度経験者が運営に携わったことにより、スムーズに事業を進められた。また、昔体験をできるプログラムを多く取り入れたことで、この事業のねらいである「先人の知恵と自然体験を融合した体験活動」を存分に体験することができた。各プログラムでは、大学生が小学生に分かりやすく、楽しく伝えることができていた。これは、毎晩行ったリフレクションを基に、大学生が主体的に準備や運営に携わったことによるものだと考える。アンケート結果から、大学生も小学生も心に残り、実り多き事業であったといえる。

１４　事業の課題

充実した事業であった反面、過密スケジュールだったため、参加者の中には体力的負担が大きく感じた方もいた。特に大学生は６日間という長期となる事業なので、ゆとりあるプログラムを検討する必要がある。また、夏季に行う教育事業のため、熱中症対策をさらに万全にし、体調不良者を出さないプログラム設定に努めたい。

（担当：企画指導専門職　岡本　和也）